

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520248

研究課題名(和文) 貴船神社の文学と歴史

研究課題名(英文) The history and literature of Kifune shrine

研究代表者

三浦 俊介 (MIURA, Shunsuke)

立命館大学・理工学部・非常勤講師

研究者番号：70599323

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：近年、京都市左京区の貴船神社はパワースポット・縁結びなどの功德を謳って多くの参拝者を集めているが、学術的研究が進んでいるとは言えない。しかし、平成に入り、上賀茂神社関連の古文書の目録が作成され、あるいはデジタルアーカイブとして公開されたものもあって、資料が閲覧しやすい環境が整った。この度、研究代表者(三浦俊介)は幸いなことに科研費の助成を受けることができ、その助成金で調査した史料や購入した書籍などによって、主に江戸時代以前の貴船神社の歴史や文学作品の実態を明らかにすることができた。研究の一部は(1)単著『神話文学の展開』の論文、(2)報告書『貴船神社の文学と歴史』の史料や論文などで公にする。

研究成果の概要(英文)：In recent years, the Kifune Shrine in Kyoto has attracted a large number of worshippers seeking the merit of such as a power spot and marriage. But still not been too much research. However, in the Heisei, Kamigamo shrine-related document list been created, or there is also something that has been published as digital archives. Documents is well-equipped environment, that is easy browsing. In this time, We have studied the history and literature of Kifune shrine. Part of the research will be published in the next two books. (1) "Deployment of the myth literature", (2) "History and Literature of the Kifune shrine".

研究分野：人文学

キーワード：神社 貴船神社 貴船の本地 神仏習合 神祇歌 神話 境内図 呪詛

1. 研究開始当初の背景

(1) お伽草子『貴船の本地』の注釈的研究からの始発

三浦俊介(以下「三浦」)は立命館大学に提出した修士論文において、お伽草子の『貴船の本地』を取り上げたが、諸伝本の巻末に記されている貴船神社の祭神に関する外部資料が少なく、注釈的研究を深められなかった。というのも、貴船神社は京都の水源地に当たる非常に重要な古社であるにも関わらず、北野天満宮や八坂神社のような「神社史料集」が公刊されたことがなく、また、貴船神社を研究の中心に据えた研究者が一人もおらず、十分に研究されているとは言えなかったからである。その後、『貴船の本地』を中心とする博士論文を執筆するに際し、三浦は、お伽草子を越えて、貴船神社そのものを総合的に調査・研究する必要性を確信し、貴船神社研究をライフワークとすることを決意した。博士論文『お伽草子の研究』によって、三浦は2010年3月に博士(文学・立命館大学)を授与されている。

(2) 貴船神社所蔵文書の公刊の許可

貴船神社所蔵の史料として『黄船社秘書』、『貴船社惣絵図』がある。三浦は、高井宮司から両史料の翻刻・公刊が許可されている。

(3) 上賀茂神社文書の閲覧状況の充実

貴船神社は平安時代後期以来、上賀茂神社(正式名称「賀茂別雷神社」)に実質支配されてきたのであるが、近年、貴船神社関連文書を含む上賀茂神社文書の全体像が、以下の3点で明らかになってきた。以下の史料によって上賀茂神社および貴船神社研究が飛躍的に進展することとなる。

『賀茂別雷神社文書目録』(京都府教育委員会編、2003年)の公刊によって、上賀茂神社が現在所蔵している古文書が分類され、番号による貴重書の閲覧が可能になった。

上賀茂神社元宮司の座田司氏旧蔵の古文書類(全889点)が國學院大学の所蔵となり、『神道書籍解説目録-座田家舊蔵書-』(國學院大学図書館調査室、1984年)が編纂されたのみならず、雄松堂書店から35ミリポジティブロール(いわゆる「マイクロフィルム」)が販売されて閲覧が容易になった。重要な古文書が多数存在する。総合的な研究はこれからである。

国会図書館蔵デジタル化資料「賀茂社記録」全97冊が公開された。その中には貴船神社の祭祀や訴訟に関わる文書(約400頁)が含まれている。

2. 研究の目的

(1) 京都の賀茂川の上流、鞍馬山の東麓に位置する古社貴船神社は、古代以来、祈雨止雨・病気平癒・出世祈願・疫神封じ・呪詛などの多様な祈願を引き受けてきた。近年はパワースポット・縁結びなどの功德を謳って多くの参拝者を集めているが、学術的研究が進

んでいるとは言い難い。貴船神社の祭祀・信仰の実態を、従来知られていた史料以外に、近年新たに整備・報告・公刊された新資料を用いて明らかにするのが一番の目的である。

(2) 貴船神社を舞台とする文学作品の成立背景や内容に関する注釈的研究を進める。具体的には、和泉式部ほかの和歌や歌徳説話、『梁塵秘抄』の歌謡、無住『沙石集』巻第十末「敬愛祭」、『貴船社歌合』の神祇歌、『神道集』能『鉄輪』、お伽草子『貴船の本地』、説経『小栗』などがある。

(3) 古文書・文学作品・境内絵図などを参照して、貴船神社の歴史的展開、信仰・文化の全体像を明らかにしたい。

3. 研究の方法

(1) 古文書で社殿・祭祀・信仰の実態を調査・検討する。貴船神社・上賀茂神社ほかが所蔵している古文書の調査・分析によって、貴船神社の歴史が明らかになる。貴船神社は度重なる洪水によって、古文書の多くを流失・散逸させ、また辛うじて所蔵していた社家文書も虫損などで損傷が激しく本文を見ることができない。神社所蔵の史料は上記の2点のみである。

(2) 文学作品で貴船神社の信仰・文化を類推する。貴船神社に関する文学作品としては増基法師『いほぬし』、和泉式部ほかの和歌、後白河法皇撰『梁塵秘抄』、散逸歌合『貴船社歌合』、無住『沙石集』巻第十末「敬愛祭」、『神道集』能『鉄輪』、お伽草子『貴船の本地』、説経『小栗』、現代の推理小説・ライトノベル・マンガほかがある。

(3) 境内絵図を通して、社殿の古態・変遷を認識する

(4) 本社・摂末社の情報を通して神社の古態性や変遷を考察する

4. 研究成果

(1) 平成24(2012)年度以降に執筆・増補した論文として、単著『神話文学の展開』(思文閣出版、平成28年度末に刊行の予定)所収のものがある。そのうち、以下の論考が科研費の助成による成果である。

第部第二章「神社神話の遡源」: 貴船神社蔵『黄船社秘書』所収の「玉依姫が黄船に乗って川を遡上し、当地に到達して鎮座して貴船の神となった」という遡源神話の典拠が、江戸時代に書かれた神道書『先代旧事本紀大成経』であることを明らかにした。当該文献に先行する口頭伝承が存在した可能性もあるが、貴船神社に奉仕していた「舌一族」が神道書の権威を借りようとしたものと考えられる。

第部第三章「神社神話の降臨」: 『黄船社秘書』には二種類の降臨神話が記載されている。一方は、貴船神社の祭神が貴船山の鏡岩に降臨したという内容、もう一方は、神に奉仕する一族が神との約束を破って神々の世

界のことを人間に話して口を裂かれたという内容である。

第 部第四章「神々の尻尾」：京滋の神社仏閣の中には名前に「尾」が付いているものがある。例えば、京都の寺院では高尾・榎尾・柵尾の三尾が有名であり、貴船神社の摂末社には山尾・川尾・黒尾の三社がある。地名や神社名における「尾」には 動物の尻尾と関連している、山の尾根に位置している、神霊の意味を有する、の三種がある。貴船神社の場合、黒尾社は狐の黒い尻尾、山尾と川尾はともに神霊の意味であろう。

第 部「中世神話『貴船の本地』論」は基本的には博士論文『お伽草子の研究』（自刊、平成 21 年）の内容を踏襲しつつ補足したものであるが、第六章は書き下ろしである。

第 部第六章「中世神話『貴船の本地』と貴船神社」：『貴船の本地』の伝本の中で最も古態性を留める慶応義塾大学附属研究所斯道文庫蔵本には、物語の女主人公は「貴船の大明神」となり、男主人公は「まらうど神（客人神）」となったと記され、さらに「貴船の大明神」の本地仏は「弁才天」だとも記されている。従来注釈および研究で「弁才天」「客人神」について論じたものは皆無である。前者については、國學院大學蔵座田家旧蔵の『木船谷者所持記』を参照することで貴船神社本社の本地仏に「八臂弁才天」が位置付けられていることが判明した。後者については、資料そのものは発見されていないが、奥宮本社の祭神と推定した。

(2) 平成 24 年度に翻刻紹介した資料に國學院大學蔵『木船谷者所持記』がある（「資料紹介 國學院大學蔵『木船谷者所持記』（全）」、『立命館文学』第 630 号、2013 年）：本史料は、1914 年に星野恆氏によって紹介されて以来、行方不明になっていたもので、約百年ぶりに國學院大學現蔵の座田家旧蔵文書の中から発見したものである。三浦が全文を翻刻した。同史料の中には貴船神社祭神の神話のみならず、本社・摂末社の情報などが豊富に記載されている。

(3) 平成 25 年度に執筆した論文に「貴船社歌合は上賀茂神社で詠まれた」（『論究日本文学』第 100 号、2014 年）がある。「貴船社歌合」は文治三年（1187）七月に催されたと思われる社頭歌合であるが、既に散逸している。萩谷朴氏編『平安朝歌合大成』第八巻で 7 首を集成したが、歌題「山水」で調査した結果、前中納言資実の「つまぎをばしはし岩根に寄せ掛けてしづがてずさむ谷の下水」を加えることができた。計 8 首の歌人の多くは歌林苑の会衆であり、上賀茂神社神主の賀茂重保が編纂した『月詣集』の作者である。和歌の中に「神山の峰の滝」や「賀茂山の谷の御手洗」という表現が見えるところから、「貴船社歌合」は詠作の場としては上賀茂神社境内の摂社「貴布祢社」（現在の「新宮神社」）であると考えられる。

(4) 研究期間内に調査研究した資料 「貴

船神社境内絵図」

貴船神社境内を描いた絵図は、貴船神社に 1 図、上賀茂神社に 3 図、天理大学附属図書館に 9 図、京都市内在住の個人の 1 図が確認されている。いずれも江戸時代の上賀茂神社社家によって作成されたものと思われる。の中には洪水で被災した社家の様子を上賀茂神社の社家が実地調査して「流出」「半壊」「無事」などと記したものもある。江戸時代の洪水被災記録としても興味深い絵図である。は『天理図書館叢書』（全 46 輯）の目録類やウェブサイトで検索できる資料ではなく、古いカードによってしか所在を確認できない資料が多数あった。カードや目録の検索により、天理大学附属図書館には「貴布祢社図」「貴布祢山絵図」などが 9 図所蔵されていることが判明した。個人蔵『貴船神社境内絵図』は A『神社古図集 続編』（臨川書店、1990 年）と、B『近世風俗画 5 名どころ』（淡交社、1991 年）で全体像を知ることが出来る。B の編者である狩野博幸氏は、絵師を狩野長信（1577 - 1654）と推測しており、江戸時代初期の貴船神社の社殿の様子が詳しくわかるものである。本絵図には「飯綱宮」が描かれている。従来、京都における飯綱社としては愛宕神社のもののみが知られていたが、江戸前期の一時期だけ貴船神社にも飯綱権現が祭られていたことが判明した。

(5) 研究期間内に調査研究した資料 「六字経法曼荼羅」

観世音菩薩に家族の病氣平癒を願って作成された『六字経法』という密教の秘法がある。しかし、この祈禱法はやがて呪詛に転用される。『覚禅抄』『薄草子口決』『師口』などの密教書の本文ならびに「六字経曼荼羅図」に梵字や漢字やカナで「貴船」の名が記されている。これらの密教資料の多くが醍醐寺の高僧である仁海（955? ~ 1046）や憲深（1192 ~ 1263）、頼喩（1226 ~ 1304）と関連している。おそらくは「雨僧正」の異名を持つ仁海が、祈雨止雨に靈驗あらたかな貴船神社を頼んで病氣平癒の呪法を作成したのが原形であり、呪詛法はその延長線上に成り立つものである。

(6) 研究期間内に調査研究した資料 「鉄輪」

能『鉄輪』は夫の浮気相手を呪詛しようとする妻を貴船神社との関わりの中で描いたものである。注釈的研究として重要な「丑刻参り」や「頭に五徳を戴く作法」に関しては不明な点も多いが、貴船神社にまつわる呪いの釘については三浦圭一（三浦俊介の実父）の研究がある。同氏の論文「庶民の一年と一生」には「寛元四年（1246）年十月十八日」の奥書を有する「勝尾寺住侶等重申状案」（勝尾寺文書）における「呪いの釘」の記事が紹介されている。

(7) 研究期間に調査研究した資料 「丑日講式」

正嘉二年(1258)に真言僧「恵鏡」(伝未詳)が作った『丑日講式』は貴船神社の祈雨止雨の靈験あらたかなることを期待した講式である。伝本は東大寺図書館・高野山大学・東寺観智院・上野学園日本音楽資料室などに所蔵されている。この講式の記述内容から、鎌倉時代の貴船神社における神仏習合の実態の一端を伺うことができる。近時、金子良子氏の論考が発表された。今後、同講式の研究が進展することが予想される。

(8)研究期間に調査研究した資料 「貴船の本地」

現在、お伽草子研究は文学のみならず美術・宗教などから多角的に研究されており、総論や各伝本の書誌、その中の一伝本の注釈的研究まで、古典文学研究の中で最も活況を呈しているジャンルと言える。お伽草子『貴船の本地』は近年、京都大学蔵本が発見、公刊されて新しい時代を迎えている。同本が古態性を残す伝本の一つだったからである。大学院以来、三浦は『貴船の本地』の注釈を中心に研究を進めてきたが、科研費助成による貴船神社の歴史・祭祀の調査を通じて、誰も到達していない最も深い『貴船の本地』研究ができていると確信している。

(9)報告書『貴船神社の文学と歴史』の編集と執筆

最終的な研究成果となる報告書『貴船神社の文学と歴史』の内容としては以下のものを予定している。目次を掲げて全体像を示す。第部「歴史編」:「貴船神社略史」「きふね名義考」「貴船社祭神考」「六字経法の呪詛神」「鞍馬寺との関係」「上賀茂神社との関連」「解放と解体の明治維新」など。

第部「文学編」:「和泉式部と敬愛祭」「和歌と歌徳説話」「貴船社歌合」「『神道集』と三十番神」「能『鉄輪』の呪いの釘」「中世神話『貴船の本地』の形成」など。

第部「撰末社編」は「奥宮と陰陽師」「飯綱社の謎」「日吉社の成立」「山神社から結社へ」「梶取社は稲荷である」など。

第部「史料紹介編」は1『黄舟社秘書』、2『木船谷者所持記』、3『丑日講式』、4『勝尾寺文書』、5國學院大學蔵『日吉社託宣記』など。中でも1『黄舟社秘書』は貴船神社秘蔵の内部資料で、初めて全文の活字化が許可された非常に貴重な史料である。

第部「境内絵図編」:貴船神社蔵『貴船神社惣絵図』、狩野長信画『貴船神社境内絵図』、貴船神社境内図一覧、貴船神社山絵図一覧など

第部「年表・系図編」:「貴船神社略年表」「撰末社年表」「歴代宮司一覧」、「索引」

また、古記録や上賀茂神社関連の古文書、和歌、説話、お伽草子(室町時代物語)、江戸時代の地誌・随筆などを博搜して、神社の全体像を示す『貴船神社史料集』の編纂を予定している。できれば現代の推理小説や随筆、新聞や雑誌の記事、マンガなどにも言及したいが、近年の神社ブームで多くの記述があっ

て追い切れない。調査・掲載の範囲を検討中である。

引用文献

・星茂恆「賀茂貴布祢争訟始末(第1回~第7回)」、『史学雑誌』第25編第4号~第27編第5号、1914年4月~1916年5月

・三浦圭一、庶民の一年と一生、中世民衆の世界、三省堂、1988年、225-290

・金子良子、『丑日講式』にみる本地垂迹と管弦歌詠、法政大学大学院紀要、71号、2013年、352-323

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2件)

三浦 俊介、貴船社歌合は上賀茂神社で詠まれた、論究日本文学、査読無、100号、2014年、65-84

三浦 俊介 翻刻 國學院大學蔵『木船谷者所持記』(全)、立命館大学、査読無、630号、2013年、330-343

[学会発表](計 4件)

三浦 俊介、貴船神社の和歌史、立命館大学日本文学会第148回研究例会、2016年9月13日、立命館大学(京都府京都市)

三浦 俊介、能『鉄輪』と貴船神社、立命館大学日本文学会第145回研究例会、2015年9月13日、立命館大学(京都府京都市)

三浦 俊介、六字経法と貴船神社、立命館大学日本文学会第139回研究例会、2013年9月8日、立命館大学(京都府京都市)

④三浦 俊介、中世神話『貴船の本知』と貴船神社、立命館大学文学部説話文学研究会、2013年5月10日、立命館大学(京都府京都市)

[図書](計 1件)

三浦 俊介、神話文学の展開、思文閣出版、2016年(年度内刊行予定)

[産業財産権]

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等:なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

三浦 俊介 (MIURA, Shunsuke)
立命館大学・理工学部・非常勤講師
研究者番号：70599323

(2)研究分担者：なし

(3)連携研究者：なし